

平等寺だよ里

二重の塔再建

丸子孝法



中興八〇〇年記念の二重塔、釈迦堂の再建も多くのの方々のおかげで、ご奉賛ご協力のもと八月一日落慶を迎えます。

丁度十年後の二〇一四年は、お釈迦さまの二五〇〇回忌に当たりますので、ありがたい報恩感謝の再建になります。

編集発行

☎633-0001

桜井市三輪 38

三輪山平等寺

TEL/FAX

0744-42-6033

昨年十月は北アメリカ国際布教、両大本山北米別院禅宗寺創立八〇周年記念大授戒会が厳修されました。随喜させていただき大変感動しました。仏教はインドからはじまり全世界に伝わりましたが、お釈迦さまの最後のみ教えは真実にめぐりめ分別を離れよという非対立の人類平和の大原則であります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



塔の起源

釈迦が亡くなると、信者によつて遺骨(舍利)は八つに分けられ、舍利を安置する建造物が作られました。これが塔の起源です。二重塔の「塔」も、サンスクリット語のストウパーの音を写した卒都婆・卒塔婆(そとば・そとうば)を略した言葉なのです。

ストウパーというと、釈迦や仏弟子などの遺骨や遺品を安置した塔(仏塔)をイメージすることが多いと思いますが、もともとは土を盛り上げたお墓のことで、仏教以前から存在していた土饅頭(どまんじゅう)の形をしたお墓を意味していたのです。それが、時代が降るにつれてレンガや石で増広・補修されていきました。また仏弟子や偉いお坊さんのストウパーも作られるようになり、単なるお墓ではなく、ある種の記念碑的性格をもつようになったのです。

南インドを除く全インドをはじめて統一したアシヨーカー王は、仏教を熱心に信仰し、保護したことで知られています。伝説によれば、王は、はじめに作られた八つの塔を開いて仏舍利を取り出し、それを分けて八万四千の仏塔を建立したと伝えられています。また王は、釈迦にゆかりのある地に巡拝して、ある地をさらに民衆にも勧めたため、塔を作ること(起塔供養)・仏塔崇拜・仏蹟巡拝が一気に流行し、仏教が一般の人々にまで広まったのです。塔は、このようにして作られ、発展していきました。しかし塔に対する信仰は、はじめは一般人のみでした。それは、初期には戒律で出家者による仏塔供養が禁止されていたからです。ですから、はじめは精舎とは異なつた場所に作られたようです。それが徐々に融合して寺院を形成していくことになりました。

北米記念に随喜

去る、十月十五日(水)より十九日(日)の五日間にわたり、ロサンゼルス市・両本山北米別院禪宗寺において、北アメリカ開教八十周年、禪宗寺創立八十周年の記念行事が開催されました。

この度の八十周年記念行事は、曹洞宗宗務庁の共催、両本山の協賛を仰ぎ、北アメリカ国際布教総監部、両本山北米別院禪宗寺、国際センターが総力を上げて準備し開催されました。

記念行事の授戒会に於いて丸子孝法特派布教師が、説戒師の配役を勤めました。

日本より五十六人の随喜を得、南アメリカより三好晃一国際布教総監、北アメリカより国際布教師、伝道教師、伝道師三十五人が荷担し、総勢九十二人の僧侶により八十周年慶讃法要が厳修されました。

戒弟は、禪宗寺より九十四人、桑港寺(サンフランシスコ)より七人、曹禅寺(モンテベロ)より六人、好人庵(オークランド)より七人、日本より六人、総数百二十人。その内、四十人以上が英語を母国語とする戒弟でありました。



五日間の授戒会は北アメリカ開教八十周年の歴史上はじめての試みであり、さまざまな工夫がなされ、特徴のある意義深い戒会となりました。例えば、英語を母国語とする方のためには配役・差定はすべて英訳され、歎仏会・壇上礼・仏祖礼はローマ字化され、進

退・差定について詳しい英語の解説をつけ、また戒弟のためのしおりも英訳されました。

北アメリカの各師が尸羅場で敬虔に伝供し、両班に立ち、日本の曹洞宗の法要を見事に進退し、諸行事が文字どおり厳修されました。国際布教師、伝道教師、伝道師、日本からの随喜各師が、同じ曹洞宗師として何の違和感もなく読経し、礼拝をしている姿は、儀式的の真の意味の美しさを表現し、戒弟にも感動をもたらしました。また、説戒、説教、直壇口宣には同時通訳を配し、話し手と通訳が一体となった見事な英訳がなされ、戒弟への理解を一層深めることとなりました。

戒会最終日の十九日には、戒弟でない檀信徒も加わり総勢三百人が参列した。丸子特派布教師による説教では、高雅な親しみ深い暖かい語り口で、人生への感謝を語られました。



完戒上堂では、すべての問答が通訳され、日米両方の文化を考慮した、日米両語による特徴のある授戒会は大開静となりました。

今回の授戒会は、随喜された日米の宗師、戒弟、尸羅場に足を運んでいただいた各寺院のメンバー全員が仏戒の光に浴し、融合し、新鮮な感動と法悦に包まれ、敬虔かつなごやかなに修行されました。北アメリカ開教八十周年の歴史に特記され、曹洞宗門の未来を明るく照らす戒光が輝いていました。

(曹洞宗報秋葉玄吾師筆より抜粋)

宗派超え平和祈願

奈良市の東大寺(華嚴宗)の大仏殿で十一月十一日、曹洞宗の若手僧侶ら七十名と共に孝仁と寛仁も参加して世界平和と仏法興隆を祈願する法要を営みました。世界平和記念日にちなみ、近畿曹洞宗連絡協議が申し出て東大寺も宗派を超えた法要に賛同し、実現しました。黄土色の袈裟に身を包んだ曹洞宗の僧侶が大仏殿に入堂。須弥壇の上で大仏をぐるりと取り囲み、普段、東大寺では使われない木魚をたたきながら仏をたたえる歎佛(たんぶつ)法要を営みました。堂内には読経の音が響きわたり、何度もひびくようにお祈りしながら須弥壇の上を巡りました。



平等寺ご詠歌

(八月一日にお唱えします)



三輪山平等寺は、五八一年聖徳太子が賊徒を平定するため三輪明神に祈願して賊徒平定後、十一面観音を刻んで寺を建立し大三輪寺と称したのに始まりです。

鎌倉時代の初期、一二〇四年慶円上人(三輪上人)を迎え三輪山平等寺と改称してから大伽藍が再建され、仏法の根本道場として栄えました。慶円上人は一三二三年一月二十八日、

八十四才の高齢で亡くなるまで仏法の興隆に力を尽くされた高僧でした。ある日、三輪山で秘法を修めていた最中、本堂の東北の関伽井(井戸)のほとりで貴女の姿に身を変じた三輪明神に会い、仏法の奥儀を伝授し、三輪明神から神道灌頂の秘法を授けられました。その時の三十一文字の歌が平等寺の御詠歌となっております。

梅花通信

十月二十四日に毎年恒例の「奈良県梅花流詠讃歌奉詠大会」がありました。



今回の参加者は、丸子妙幸さん、美佐さん、後岡繁子さん、辻本英子さん、日浦愛さん、岡本澄子さん、師岡真由美さんでした。今年には二重塔落慶法要にて『平等寺ご詠歌』を奉詠いたしますので、皆様もどうぞ御一緒にお唱え下さい。

永平寺参拝

七月十日十一日の一泊二日で毎年恒例の本山研修会がありました。

作務の日

毎年恒例の作務の日に、今年は六十名に及ぶ有志の方々がうだるような暑さの中を全身に汗を流しながら、平等寺の隅々まで掃除して下さいました。また、一心講や日高産業の方達も、ご奉仕で一生懸命に掃除して下さいました。ありがとうございました。

三輪の市開かれる

る



昨年盛大に開かれた三輪の市が、今年も春と秋に開かれます。境内にプロからアマチュアまで六十

仏舍利納める

基壇中央の心礎の穴にダルマラジカ寺の仏舍利とインド・ブッタガヤの土、菩提樹の葉、敬白文を納めた大理石製の筒形容器を安置し、仏足石で蓋をして奉安法要を営みました。



空手道場報告

平等寺研修道場で稽古をしている道場生が大活躍。大西盛久が白蓮会館西日本新人戦で準優勝。内倉拓也と古家慶大が内田塾全日本大会で優勝と準優勝とがんばりました。



法話

「折り込み広告を再利用した恩師の手紙」

学生のころ私は、下宿することもままならず、四年間を駒沢大学の学生寮で過ごしました。

そこは、永平寺や總持寺のような修行道場ではありませんが、それに準ずる生活を毎日送っており、在家から仏門に入った私にとって大変に刺激的であり、また、実り多き時代でもありました。

ところで、当時この寮の寮長であった恩師松本雍親（ようしん）先生は「宿なし興道（こうどう）」といわれた近代を代表する禅の指導者、沢木興道（さわきこうどう）老師のお弟子さまで、そのユニークなお人柄には大変親しみを感じたものです。

平素のご無沙汰を恥じながら、昨年の夏、恩師に暑中見舞いをさし上げましたところ、早速にお礼のお手紙を頂戴しました。

ところが、私はそのお手紙を開いて驚きました。懐かしい恩師からのお手紙は、水色や黄色、うす緑色の短冊にしたためられており、裏返せば、それらは新聞の折り込み広告を再利用したものであったのです。



私は自らを恥じました。業者や自治体に頼る前に、自らできることがまだまだあったのです。

今、曹洞宗では地球環境を守る全曹洞宗の運動「グリーンプラン」として、仏祖（ぶつそ）の示された「少欲知足（しょうよくちそく）」「欲（よく）を抑（おさ）え、足（た）るを知（し）る」という教えの実践を推薦しています。

かつて、私たち日本人は経済第一主義で歩んできました。そのため、大量消費、大量廃棄が美徳のように歌われ、環境破壊の大きな要因を抱きかかえることになりました。

折り込み広告を利用した恩師からのお手紙、その数枚の色とりどりの美しい短冊は、私たちに大切な事を語りかけています。

年間行事予定

【一月】

一〜三日 修正会

【二月】

十二日十三時 初護摩会

【三月】

十五日 七時 涅槃会

【四月】

【三月】中日十四時彼岸会

【七月】

【四月】 四日 十時 大護摩会
（花祭り降誕会）

【八月】

【七月】 上旬 本山研修会
中旬 作務の日
下旬 子供坐禅の集い

【九月】

【八月】 一日 九時半 最勝会
二重塔落慶法要
平等寺護持会総会

【十月】

【九月】 二十三日 十三時 地藏会
【十月】 中日十四時彼岸会
下旬 梅花大会

【十二月】

【十二月】 一〜八日 朝六時・晚七時
撰心会並びに成道会
上旬 歳末托鉢行
二十一日十四時 終護摩会
三十一日 除夜の鐘

月間行事予定

一・十五日六時 祝祷朝課

四〜二十九日 月仏参

十八日十三時 梅花講

二十四日十四時 水子供養

二十八日十四時 護摩会

（一月は上記参照）

日曜日六時半 坐禅会

まるが行く④

チロとの追いかけてこが終わり、事務所前の日当たりのいい所で一休み。あれ？何だか騒がしいぞ。誰かが喧嘩をしていたら私がワンワンと跳びかかり、争いは中止。そして、チロが間に入ってゴロンとまゐるくなる。一件落着ワン。

三輪山裏

昨年六月よりほとんど毎日欠かさず朝課に随喜される近所の方がいます。朝課の後に皆で「おはようございます」それぞれの一日の始まりです。まだまだ寒さは続きます。どうぞご自愛下さい。 合掌